

平成29年度 決算等のお知らせ

当基金の平成29年度決算は、去る7月24日に開催された第39回代議員会で審議され、全会一致で可決・承認されましたのでお知らせします。

平成29年度 年金経理 収支状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

※各表の金額は四捨五入して記載していますので合計額と符合しない場合があります。

収入 753百万円		支出 753百万円	
会社が支払った掛金等	掛金等収入 332百万円	給付費等	331百万円
年金資産運用による収益	運用収益 413百万円	運用報酬等	52百万円
解散した厚年基金から資産を受入れた額	受換金 9百万円	責任準備金増加額	22百万円
当年度に発生した不足金	当年度不足金 0円	当年度剰余金	348百万円

年金・一時金を支給した額
信託銀行・生命保険会社等に支払った運用手数料・業務委託費等

増加した責任準備金額

当年度に発生した剰余金

平成29年度の年金資産の積立状況は

(平成30年3月31日現在)

資産 5,643百万円		負債 5,643百万円	
流動資産	52百万円	責任準備金	4,215百万円
年金資産	5,591百万円	支払備金等	67百万円
当年度不足金	0円	別途積立金	1,013百万円
		当年度剰余金	348百万円

将来の年金給付のために現時点で保有していなければならない額

未払給付費などの支払準備金

前年度までに積み立てた剰余金

当年度に発生した剰余金

安心できる年金給付のために
2つの検証で
積立状況をチェック

皆さんの将来の年金給付を確かなものとするために、基金では毎年度、保有する資産について「継続基準」と「非継続基準」という基準で積立状況をチェックしています。

- 「継続基準」：基金が今後も継続していくことを前提として、年金給付に必要な積立金が確保されているかどうかを検証
- 「非継続基準」：制度が当年度末時点で終了すると仮定した場合に年金給付に見合う積立金があるかどうかを検証

区分	当基金の積立水準		基準値
継続基準	純資産額	5,575,608千円	= 1.32
	責任準備金	4,215,042千円	
非継続基準	純資産額	5,575,608千円	= 1.41
	最低積立基準額	3,947,968千円	

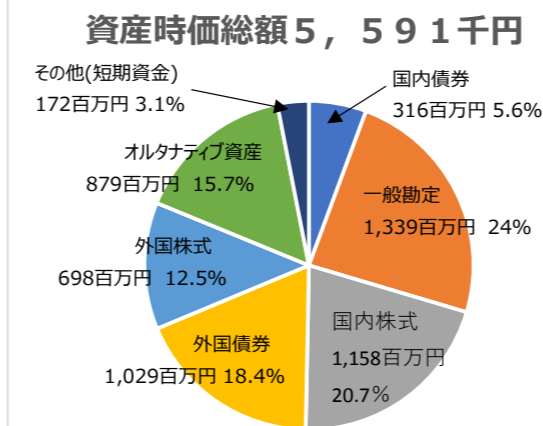
平成29年度の資産運用状況は

平成29年度の資産運用環境は、本年1月までは好調な世界経済に支えられ、株価は上昇を続けたものの、2月初旬に発表された米国雇用統計において、賃金の上昇率が高水準だったことを受け、米国長期金利が上昇、株価は下落、VIX指数急上昇などリスク回避の動きが広がった。その後、株式、VIX指数は落ち着きを取り戻したものの、国内株式は円高が重しとなり低迷。さらに3月に入り、米国トランプ大統領の鉄工・アルミの輸入制限措置表明で貿易摩擦が懸念されたことに加え、高値にあったハイテク株も調整し、軟調な動きが続いた。その結果当基金の年金資産運用結果は、年度後半に若干下げたものの、期を通して好成績で終了しました。

☆平成29年度の運用実績

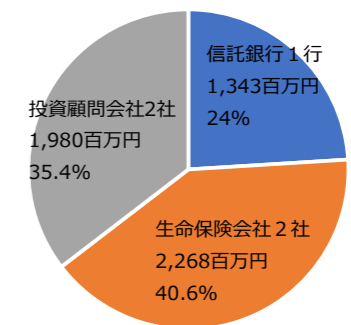
【修正総合利回り（年間収益÷資産平均残高）】+7.69%

資産構成割合（平成30年3月31日現在）



運用機関別資産残高（平成30年3月31日現在）

資産時価総額 5,591百万円



資産運用の基本方針

当基金では、以下の方針に基づき資産運用を行っております。

運用目的 当基金は、加入者及び加入者であった者に規約に規定する年金給付及び一時金たる給付の支払いを将来にわたり確実に行うため、リスク管理に重点を置きつつ、安全かつ効率的な年金資産運用を旨とし、必要とされる総合収益を長期的に確保することを運用の目的とする。

運用目標 年金資産の運用に当たっては、将来にわたって健全な年金制度を維持するに足りるだけの収益率として年金財政上の予定利率を確保するよう努めるとともに、個別資産については運用資産ごとに市場における収益率（ベンチマーク）、また運用受託機関の資産全体については運用資産ごとのベンチマークを資産構成比に応じて組合せた収益率（複合ベンチマーク）を長期的に上回ることを運用目標とする。

ぜんこくDB企業年金基金（海基第002841号）
〒920-8203 石川県金沢市鞍月2-3 石川県鉄工会館内
TEL 076-268-5566 fax 076-208-5040